

貸金業利用者に関する調査・研究

<調査結果報告書>

2026年2月27日

株式会社MSS



	P.
調査概要	
◆ 調査設計	3
◆ 本調査有効回収数	4
◆ ウェイトバックについて	5
調査結果	
◆ 借入目的	6
◆ 借入れの詳細内容	10
◆ セーフティネットの認知・借入れ等に関する相談先	17
◆ 事業資金やキャッシュレス決済の支払いのための借入状況	23
◆ ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入状況	28
◆ 貸付自粛制度の認知・利用状況	31
◆ 無登録業者(ヤミ金融)の利用状況	35

調査概要

調査手法	インターネット調査
抽出母集団	GMOリサーチ&AI株式会社(株式会社MSS提携) ネットモニター
調査地域	全国
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・18～70代の男女 ・本人または家族が以下の職業に従事している場合は対象外 出版・印刷関連、マスコミ関連(新聞・放送業等)、広告・市場調査、金融・保険・証券
調査期間	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査 2025年12月12日(金)～12月22日(月) <input type="checkbox"/> 本調査 2026年1月9日(金)～1月14日(水)
調査設計	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査: 回収目標サンプル数 最大100,000サンプル そのうち、50,000サンプルについては、性別/年代/エリアで母集団準拠し、その出現率を本調査のウェイトバック集計の係数とした。 ※母集団準拠については令和2年度の国勢調査結果を基とした <input type="checkbox"/> 本調査: 回収目標サンプル数:5,000サンプル程度 <グループA> 3年以内借入経験者 2,700サンプル <グループB> 3年以内借入経験者以外 2,300サンプル <グループC> 事業資金調達経験者及び検討者 300サンプル ※上記Bに含まれる ※「3年以内借入経験者」とは、最近3年以内に、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商工ローンからの借入れ」、「手形割引業者からの借入れ」のいずれかの利用経験がある者
有効回収 サンプル数	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査 100,000サンプル ※そのうち49,731サンプルは、性別/年代/エリアの母集団に準拠して回収 <input type="checkbox"/> 本調査 <グループA> 3年以内借入経験者 2,700サンプル <グループB> 3年以内借入経験者以外 2,300サンプル <グループC> 事業資金調達経験者及び検討者 497サンプル ※上記Bに含まれる

- 本調査の最終有効回収数は以下の通り。

	小計	3年以内 借入経験者	3年以内借入 経験者以外
全体	5,000	2700	2300
会社員	1,813	1222	591
経営者・役員	240	92	148
個人事業主(自営業等を含む)	514	211	303
公務員(教職員を含む)	149	85	64
専門職(個人事業主は除く)	74	56	18
団体職員(私立学校・病院等を含む)	47	29	18
派遣・契約社員	317	197	120
パート・アルバイト・フリーター	672	379	293
専業主婦／主夫	293	86	207
無職	758	269	489
学生	85	51	34
その他	38	23	15

- スクリーニング調査結果より、「3年以内借入経験者」が全体に占める割合は6.38%。この値が国内全体における「3年以内借入経験者」の比率と推計される。(表1)
- ただし、今回の本調査では「3年以内借入経験者」を2,700サンプル、「3年以内借入経験者以外」を2,300サンプルとして設計したため、「3年以内借入経験者」が本調査回収サンプル総数の54.0%を占め、実際の構成よりも大きな比率を占めている。
- よって、セーフティネットの認知など、「3年以内借入経験者」と「3年以内借入経験者以外」を足した数値をみる際には、3年以内借入経験者の比率を市場構成比にあわせるための補正処理(ウェイトバック)を行っている。(表2)

※本報告書においては、ウェイトバックを行った数値を記載している箇所には「ウェイトバックあり」と注記を付している。

※一部のサンプルをベースとした集計の場合は、ウェイトバックなしの数値を記している。

【表1】
スクリーニング／本調査回収結果における、「3年以内借入経験者」の割合

スクリーニング調査回収結果(人口構成比準拠スクリーニングのみ)

	全体	3年以内借入 経験者	3年以内借入 経験者以外
サンプル数	49,731	3,173	46,558
構成比	100	6.38	93.62

本調査回収結果

	全体	3年以内借入 経験者	3年以内借入 経験者以外
サンプル数	5,000	2,700	2,300
構成比	100	54.0	46.0

【表2】
ウェイトバック値の算出方法

	①	②	③	ウェイトバック値
	回収サンプル数	スクリーニング回収 結果より母集団 準拠した際の比率	回収サンプル数を スクリーニング回収 結果比率にあわせる (①全体×②)	(③÷①)
全体	5,000	1	5,000	-
3年以内借入 経験者	2,700	0.0638	319	0.1181
借入経験なし	2,300	0.9362	4681	2.0352

調查結果

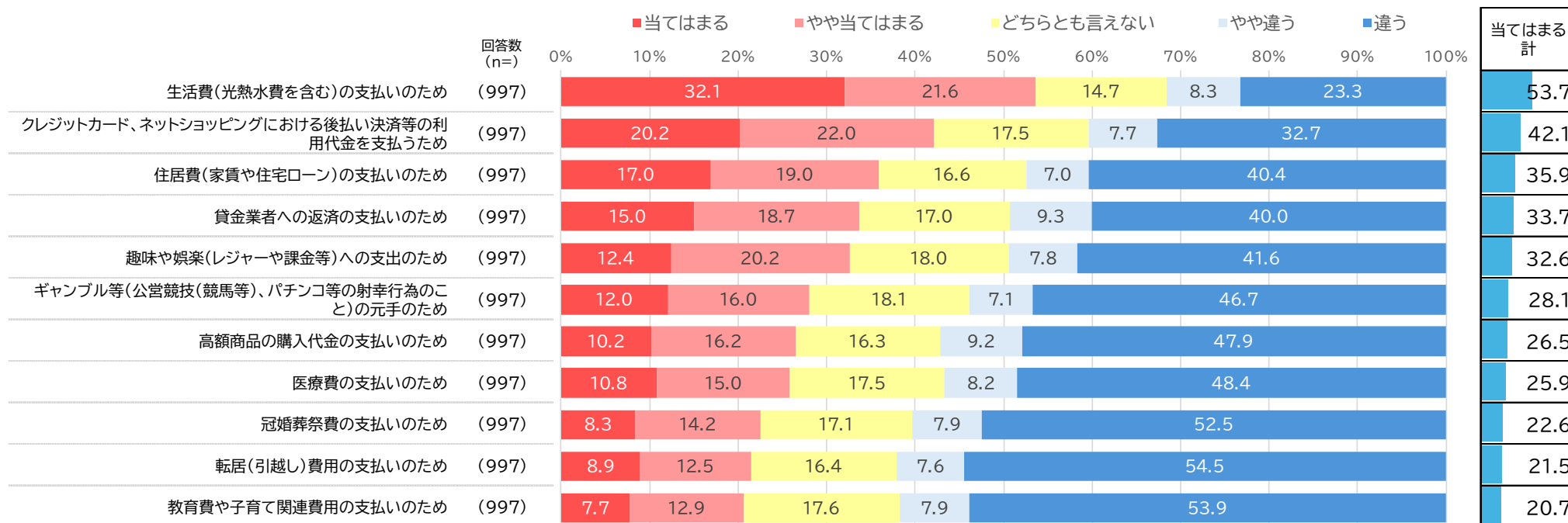
借入目的

- 【消費者金融】の利用目的として「生活費(光熱水費を含む)の支払いのため」に「当てはまる」または「やや当てはまる」と答えた人は53.7%と最も高く、次いで「クレジットカード、ネットショッピングにおける後払い決済等の利用代金を支払うため」が42.1%、「住居費(家賃や住宅ローン)の支払いのため」が35.9%と続く。

Q1-1-1.あなたが最近3年以内に借入れ・資金調達等を行った『消費者金融(個人向け貸付けを行うフィンテック事業者を含む)からの借入れ』の利用目的について、それぞれお答えください。

ベース:「消費者金融からの借入れ」を3年以内に利用した経験がある者

令和7年度



※当てはまる計=「当てはまる」+「やや当てはまる」

※今回のTOP2高い順で並び替え

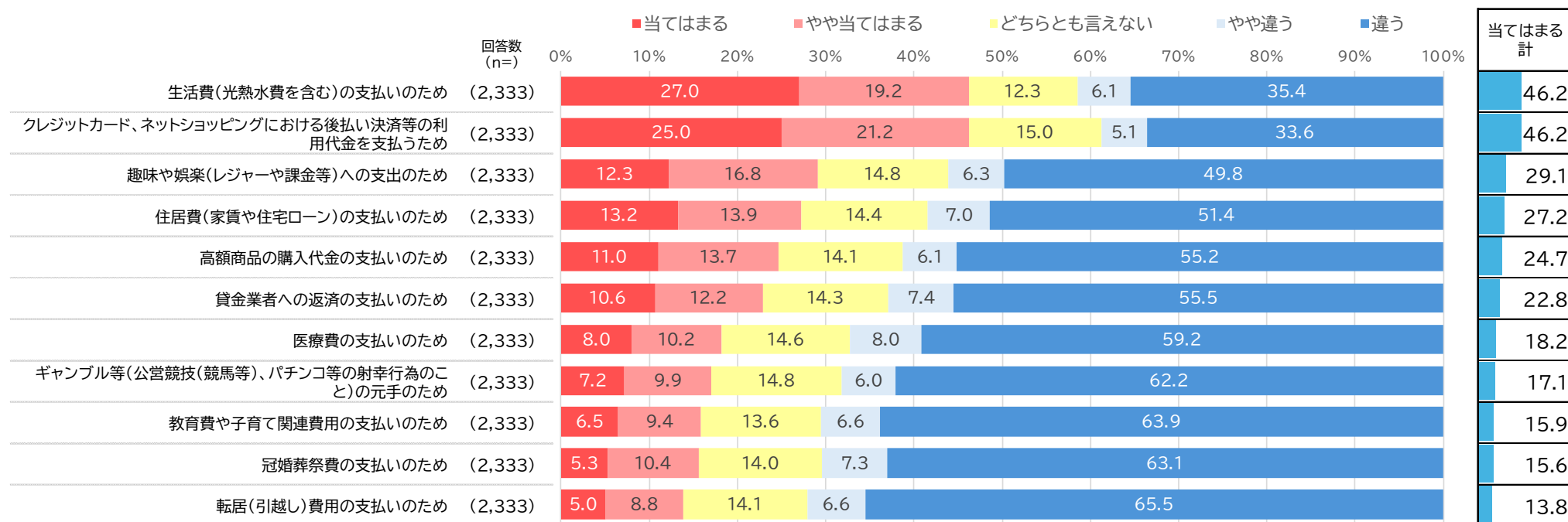
※各データは小数第2位で四捨五入

- 【クレジットカード会社のキャッシング・カードローン】の利用目的として「生活費(光熱水費を含む)の支払いのため」や「クレジットカード、ネットショッピングにおける後払い決済等の利用代金を支払うため」に「当てはまる」又は「やや当てはまる」と答えた人は、いずれも46.2%と最も高く、次いで「趣味や娯楽(レジャーや課金等)への支出のため」が29.1%と続く。

Q1-1-2.あなたが最近3年以内に借入れ・資金調達等を行った『クレジットカード会社のキャッシング・カードローン』の利用目的について、それぞれお答えください。

ベース:「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」を3年以内に利用した経験がある者

令和7年度



※当てはまる計=「当てはまる」+「やや当てはまる」

※今回のTOP2高い順で並び替え

※各データは小数第2位で四捨五入

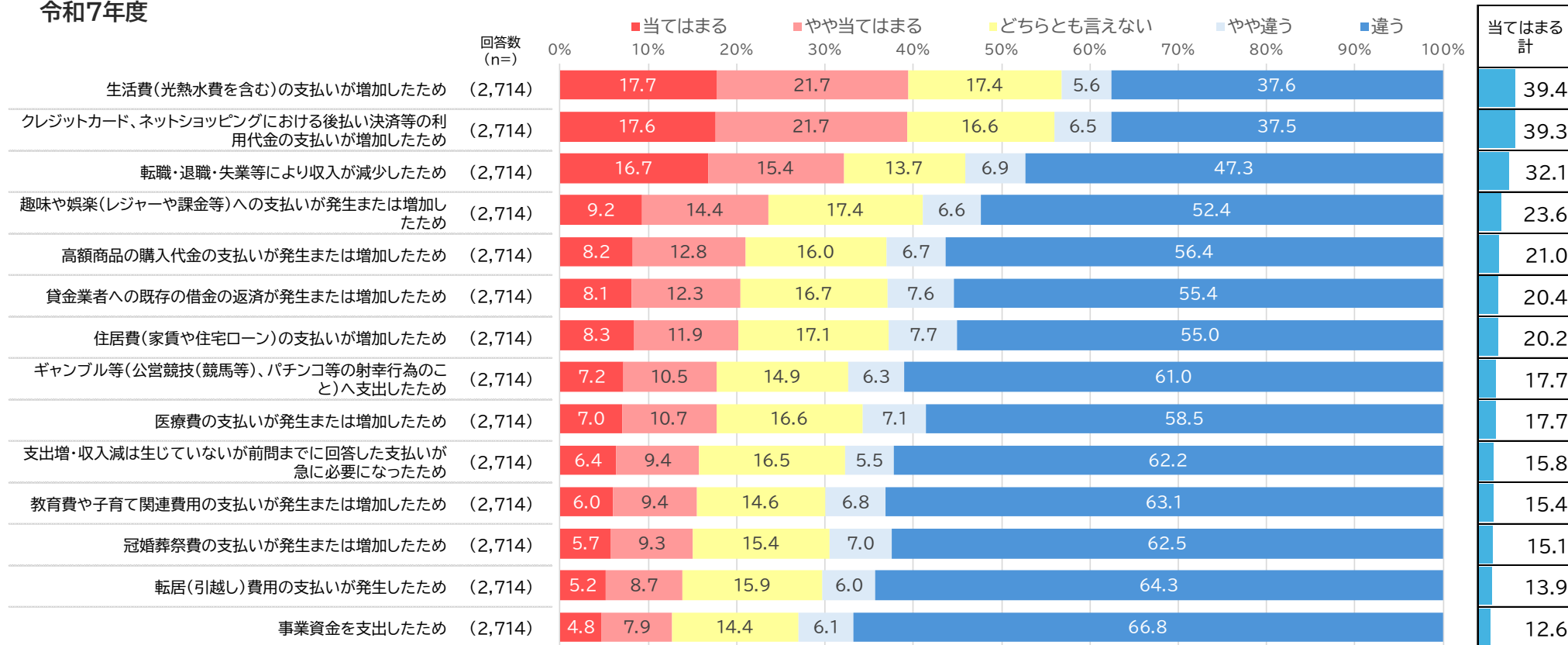
- 支払資金が不足した原因として「生活費(光熱水費を含む)の支払いが増加したため」に「当てはまる」または「やや当てはまる」と答えた人は39.4%と最も高く、次いで「クレジットカード、ネットショッピングにおける後払い決済等の利用代金の支払いが増加したため」が39.3%、「転職・退職・失業等により収入が減少したため」が32.1%と続く。

Q1-2.借入れ・資金調達を行った目的のための支払い資金が不足した原因についてお答えください。(それぞれひとつずつ)

ベース:下記の借入れ・資金調達等のサービス※のいずれかを3年以内に利用した経験がある者

※銀行のカードローン、クレジット会社のキャッシング・カードローン、消費者金融からの借入れ、商工ローンからの借入れ、各都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度、手形割引業者からの借入れ、ファクタリング、BNPL、クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ

令和7年度



※当てはまる計=「当てはまる」+「やや当てはまる」

※今回のTOP2高い順で並び替え

※各データは小数第2位で四捨五入

借入れの詳細内容

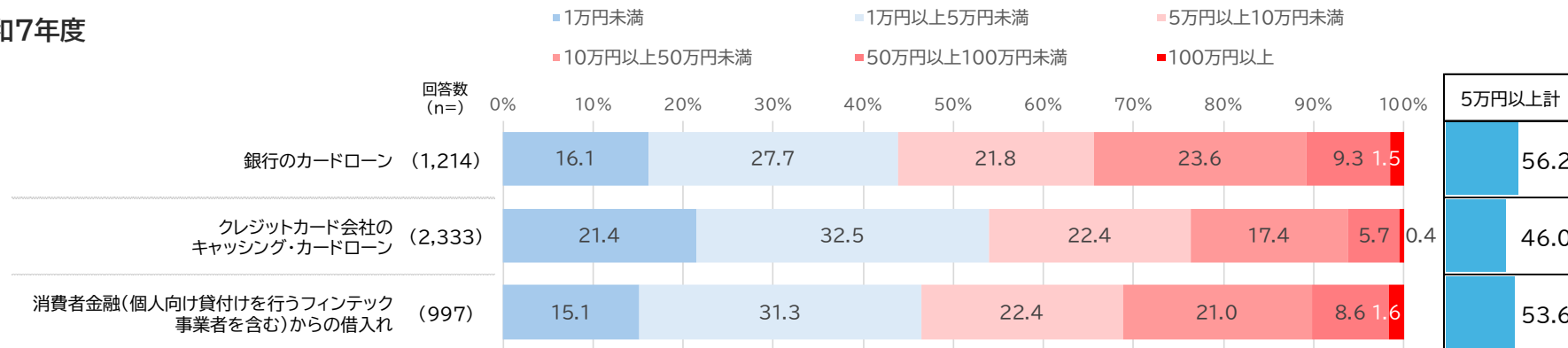
(1回の平均借入金額について)

- 【銀行のカードローン】について「1万円以上5万円未満」が27.7%と最も高く、次いで「10万円以上50万円未満」が23.6%、「5万円以上10万円未満」が21.8%と続く。
- 【銀行のカードローン】、【クレジットカード会社のキャッシング・カードローン】また【消費者金融】のいずれも「1万円以上5万円未満」が最も多い。

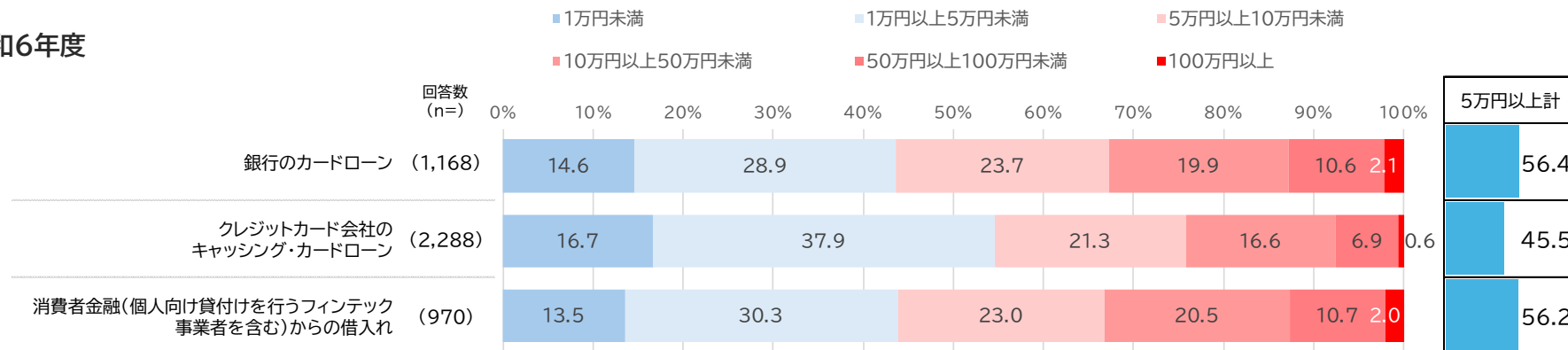
Q2.あなたが普段、以下の借入れ・資金調達等を利用される際の1回の平均的な借入金額(利用金額)はどれくらいかそれぞれお答えください。
(それぞれひとつずつ)

ベース:以下の借入れのサービスを3年以内に利用した経験がある者

令和7年度



令和6年度

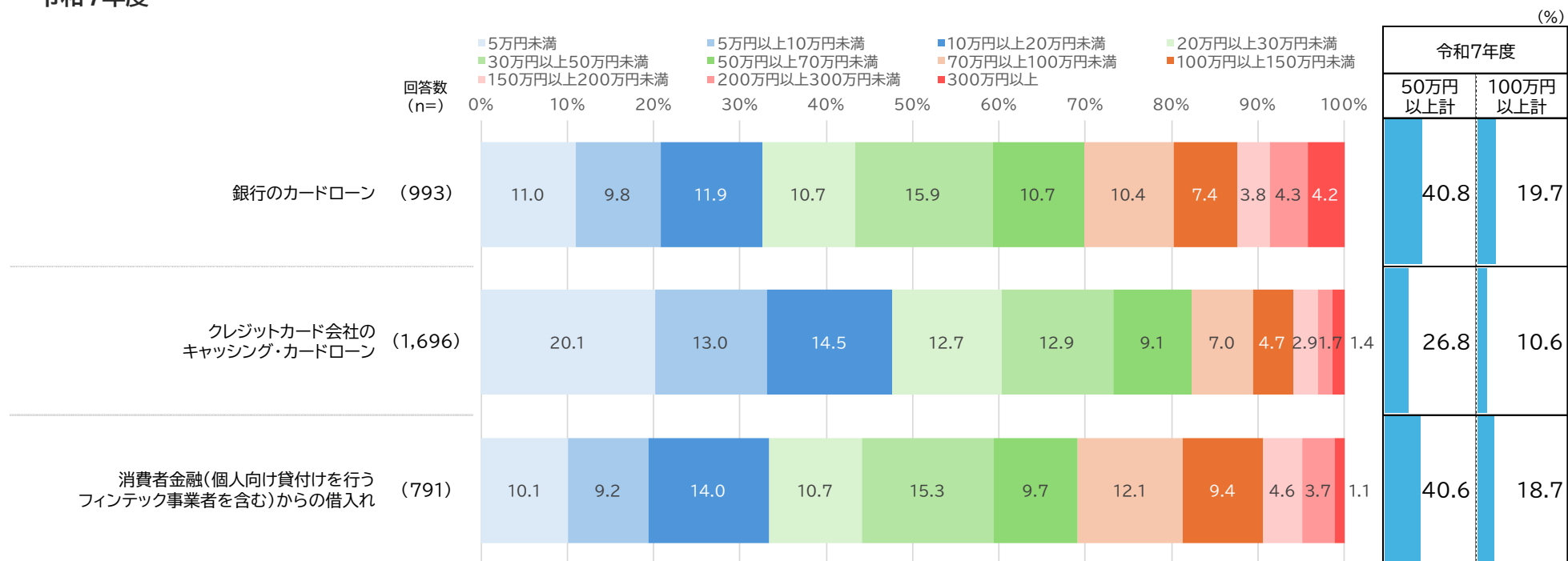


※5万円以上計=「5万円以上10万円未満」~「100万円以上」

- 【銀行のカードローン】及び【消費者金融】の借入残高について、「50万円以上」の割合がいずれも4割を超えており、また【クレジット会社のキャッシング・カードローン】と比較すると「100万円」以上の借入残高の割合も高い。
- 【クレジット会社のキャッシング・カードローン】の借入残高について、「5万円未満」の割合は20.1%、「10万円未満」の割合が33.1%であり、【銀行のカードローン】及び【消費者金融】と比較すると借入残高は少額傾向にある。

Q3.あなたがご利用の以下の借入れ・資金調達等について、現在の借入残高(利用残高)をそれぞれお答えください。(それぞれひとつずつ)
 ベース:現在、以下の借入れのサービスを利用している者

令和7年度



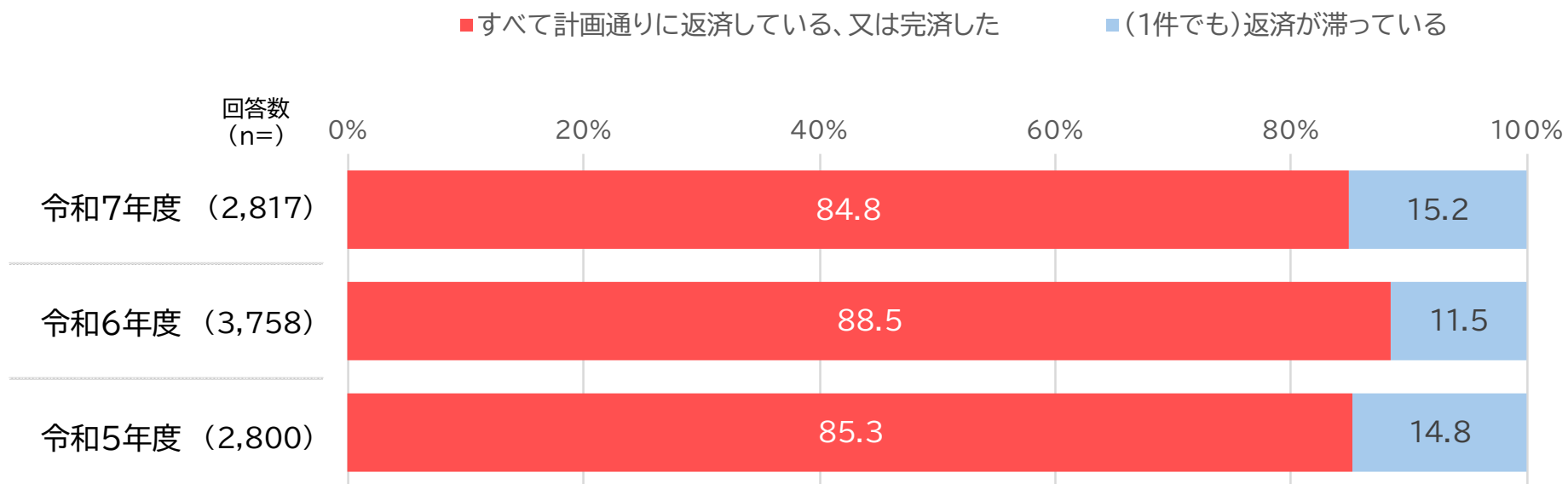
※50万円以上計=「50万円以上70万円未満件」～「300万円以上」
 100万円以上計=「100万円以上150万円未満件」～「300万円以上」

- 借入経験のある人で、すべて計画通りに返済している又は完済した人は84.8%であり前年度の88.5%と比較すると3.7ポイント減少しているが、前々年度の85.3%と比較すると大きな変化は見られない。

Q4.あなたの返済状況をお答えください。(ひとつだけ)

ベース: 下記の借入れ・資金調達等のサービス※のいずれかを利用した経験がある者

※銀行のカードローン、クレジット会社のキャッシング・カードローン、消費者金融からの借入れ、商工ローンからの借入れ、各都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度、手形割引業者からの借入れ、BNPL、クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ



- 同時に複数の借入れを経験した人が追加で借入れをした理由について、「借入れ・利用限度額に達したため」が39.9%と最も高く、「新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じたため」は25.9%である。
- 「新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じたため」と回答した人において、その借入れ・使用した資金の利用目的として「生活費(光熱水費を含む)の支払いのため」に「当てはまる」又は「やや当てはまる」と答えた人は55.8%と最も高く、次いで「クレジットカード、ネットショッピングにおける後払い決済等の利用代金を支払うため」が46.3%と続く。

Q5.あなたが1件以上借入れ・資金調達サービスを利用している状況で、追加で借入れ・資金調達サービスを利用した理由をお答えください。
(いくつでも)

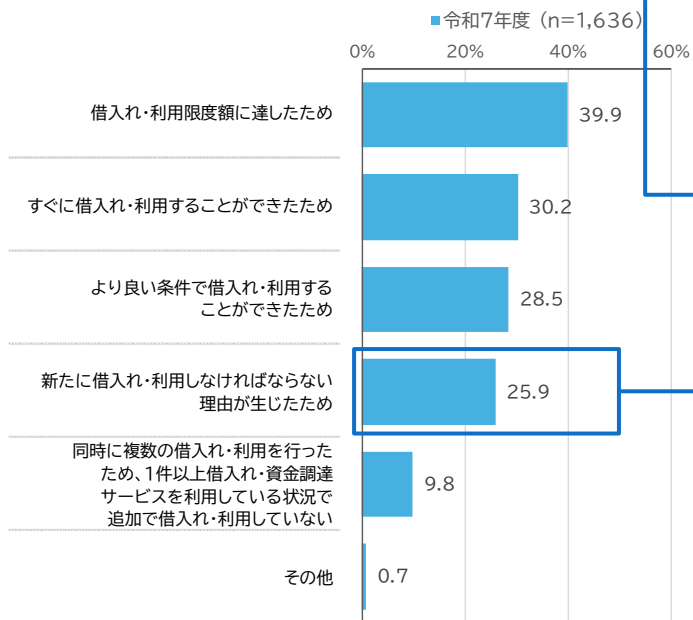
ベース:これまで同時に複数の借入れ・利用残高があった者または現在において複数の借入れ・利用残高がある者

Q6.あなたが新たに借入れ・利用した資金の利用目的をお答えください。(それぞれひとつずつ)

ベース:新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じた者(Q5で「新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じたため」を選択した者)

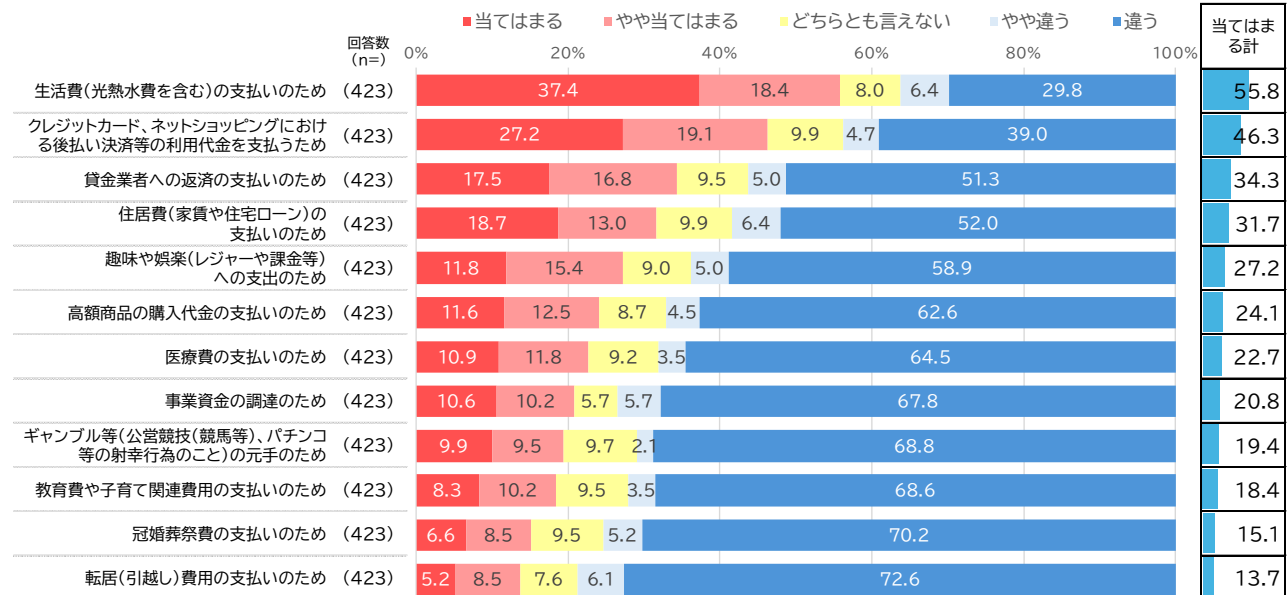
令和7年度

【追加で借入れ・利用した理由】



※「令和7年度」の高い順で並び替え

【新たに借入れ・利用しなければいけない目的】



※当てはまる計=「当てはまる」+「やや当てはまる」

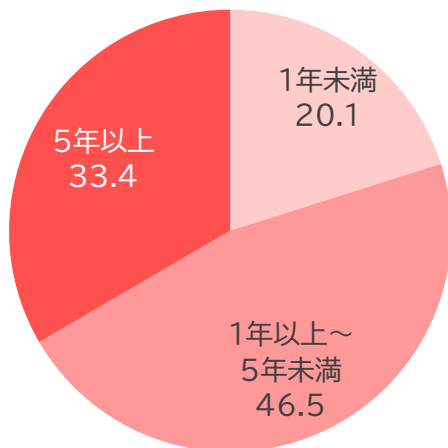
※「令和7年度」の高い順で並び替え

- 同時に複数の借入れ・利用残高があったこと又は現在において複数の借入れ・利用残高がある人の返済期間は「1年以上～5年未満」が46.8%と最も高く、次いで「5年以上」が34.3%、「1年未満」が18.9%と続く。
- また返済期間の「1年未満」、「1年以上～5年未満」、「5年以上」それぞれの割合について前々年度と比較すると大きな変化は見られないが、前年度と比較すると「5年以上」の割合が4.0ポイント減少している。

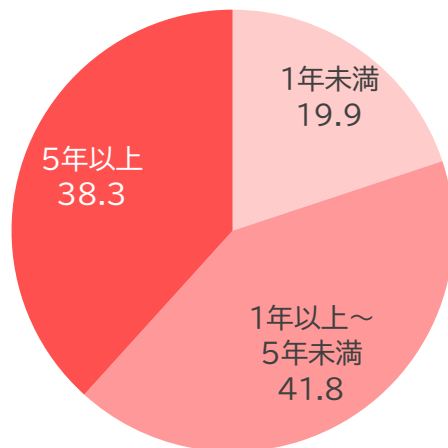
Q7.あなたの債務の返済期間(見込み含む)をお答えください。(ひとつだけ)

ベース:これまで同時に複数の借入れ・利用残高があった者または現在において複数の借入れ・利用残高がある者

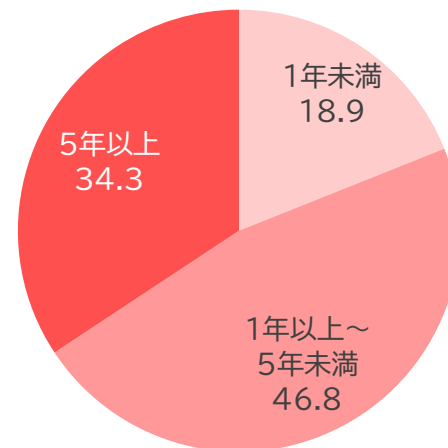
令和5年度 (n=1,940) (%)



令和6年度 (n=1,593) (%)



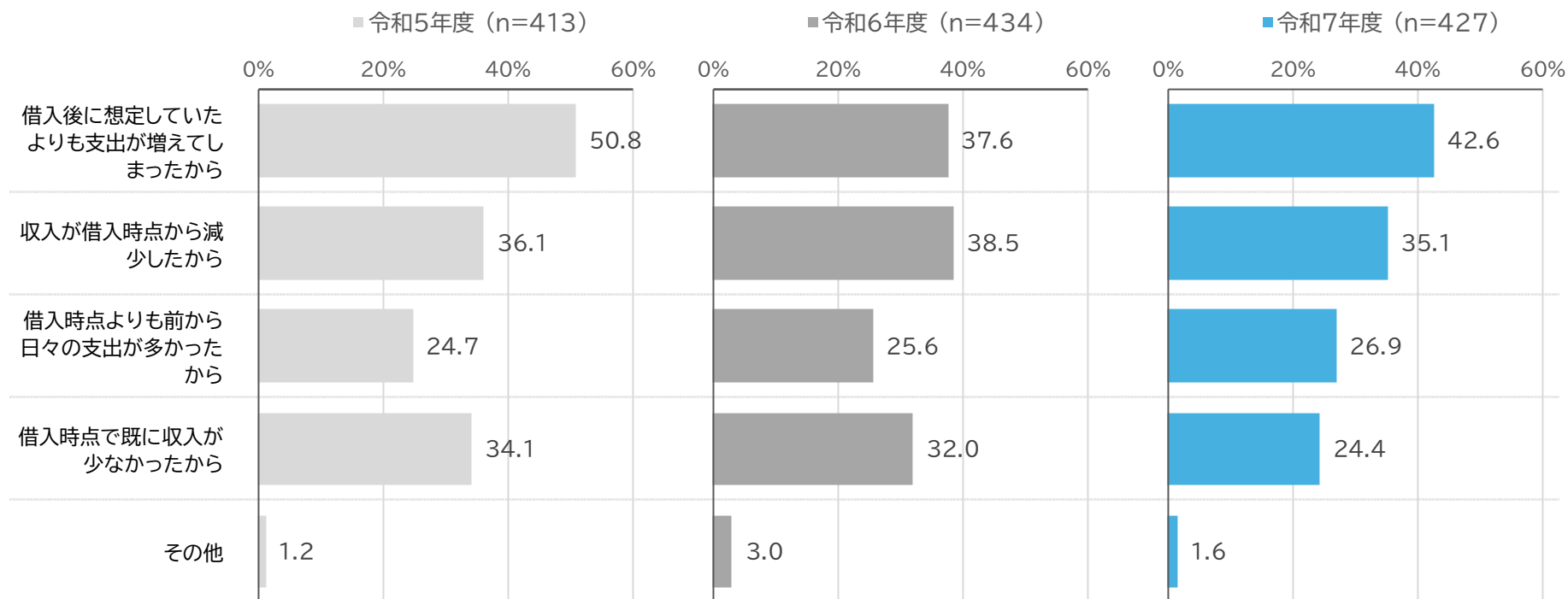
令和7年度 (n=1,636) (%)



- 「(1件でも)返済が滞っている人」の返済困難になった理由としては、「借入後に想定していたよりも支出が増えてしまったから」が42.6%と最も高く、次いで「収入が借入時点から減少したから」が35.1%、「借入時点よりも前から日々の支出が多かったから」が26.9%と続く。
- 「借入後に想定していたよりも支出が増えてしまったから」は前年度より5.0ポイント増加した一方で、「借入時点で既に収入が少なかったから」は前々年度より9.7ポイント減少し、また前年度より7.6ポイント減少しており、近年減少傾向にある。

Q8.あなたが返済困難となった理由をお答えください。(いくつでも)

ベース:(1件でも)返済が滞っている者(Q4において「(1件でも)返済が滞っている」と回答した者)



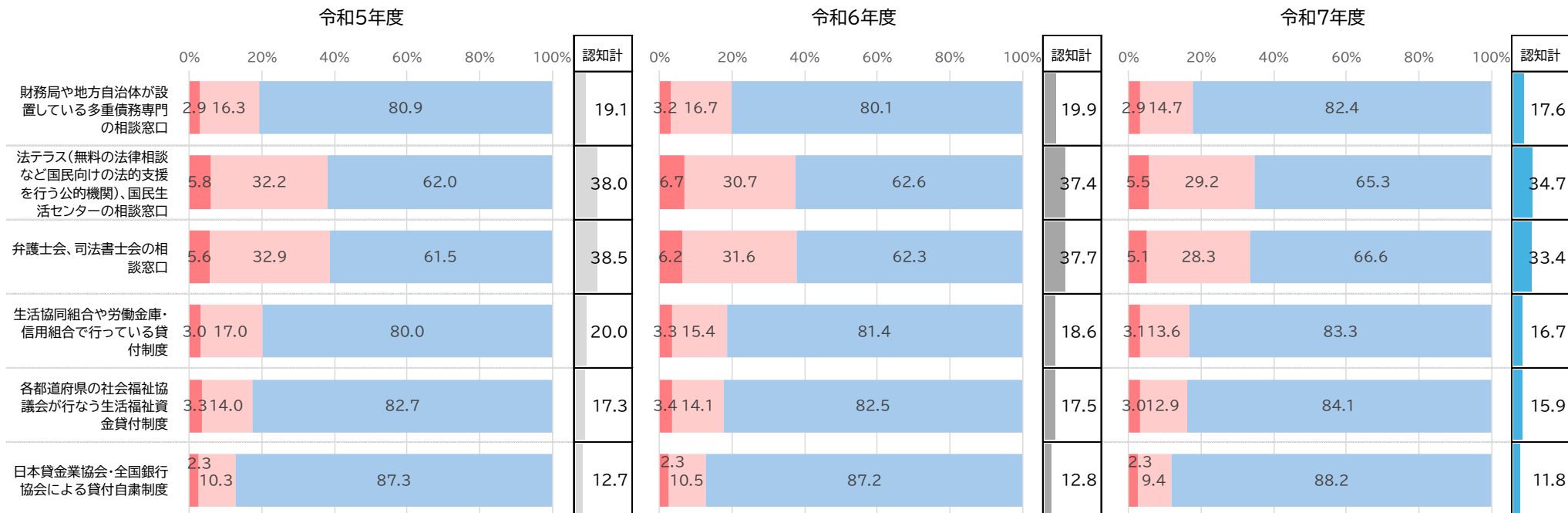
セーフティネットの認知
借入れ等に関する相談先

- 「詳細な内容について知っていた」又は「聞いたことはあるが内容は知らなかった」と回答した割合について、【法テラス(無料の法律相談など国民向けの法的支援を行う公的機関)、国民生活センターの相談窓口】が34.7%と最も高く、次いで【弁護士会、司法書士会の相談窓口】が33.4%と続き、各相談窓口の認知状況について前年度から大きな変化は見られない。

Q9.多重債務者など、金銭面で生活が苦しい状況に陥っている方を救済することを目的とした制度として、セーフティネット制度があります。あなたはそれぞれの機関や相談窓口が、セーフティネットとして、多重債務に関する相談や、生活に困った人に対する貸付け等を行っていることを知っているか、それぞれお答えください。(それぞれひとつずつ)

ベース:全体 (n=各回5,000) ※ウエイトバックあり

■ 詳細な内容について知っていた ■ 聞いたことはあるが詳細な内容は知らなかった ■ 知らない

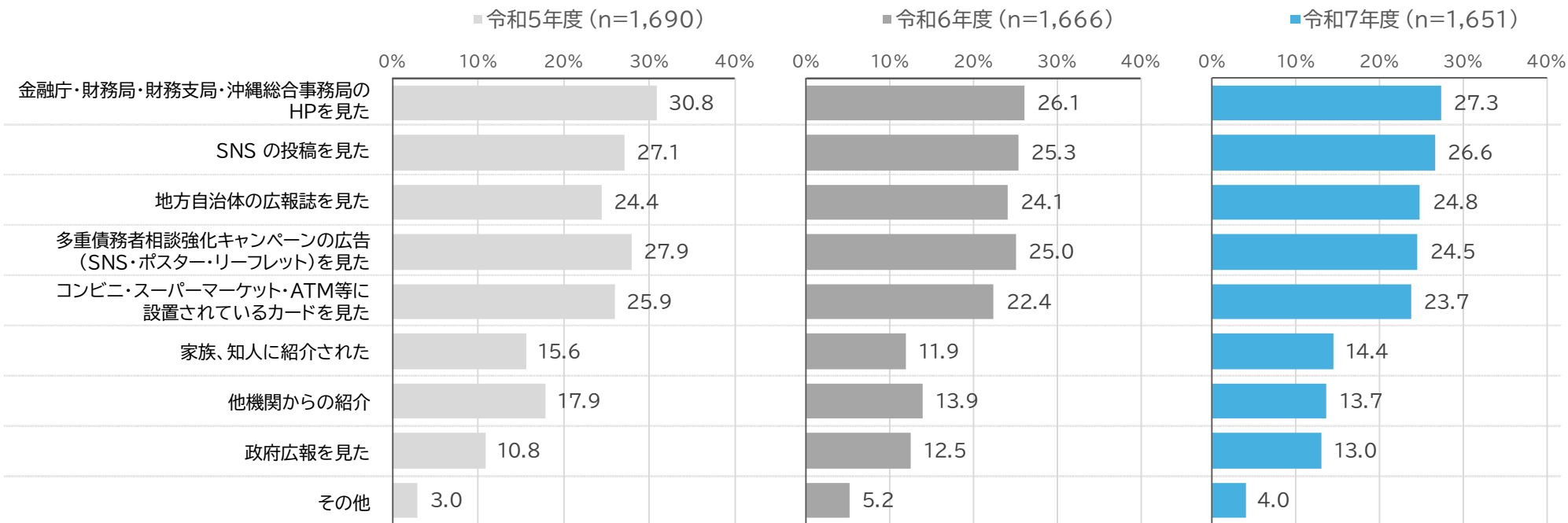


※認知計=「詳細な内容について知っていた」+「聞いたことはあるが詳細な内容は知らなかった」

- 【財務局や地方自治体が設置している多重債務専門の相談窓口】について知った経緯としては、「金融庁・財務局・財務支局・沖縄総合事務局のHPを見た」が27.3%と最も高く、次いで「SNS の投稿を見た」が26.6%、「地方自治体の広報誌を見た」が24.8%と続き、各相談窓口を知った経緯についていずれも前年度から大きな変化は見られない。

Q10.あなたが(財務局や地方自治体が設置している)相談窓口について知った経緯をお答えください。(いくつでも)

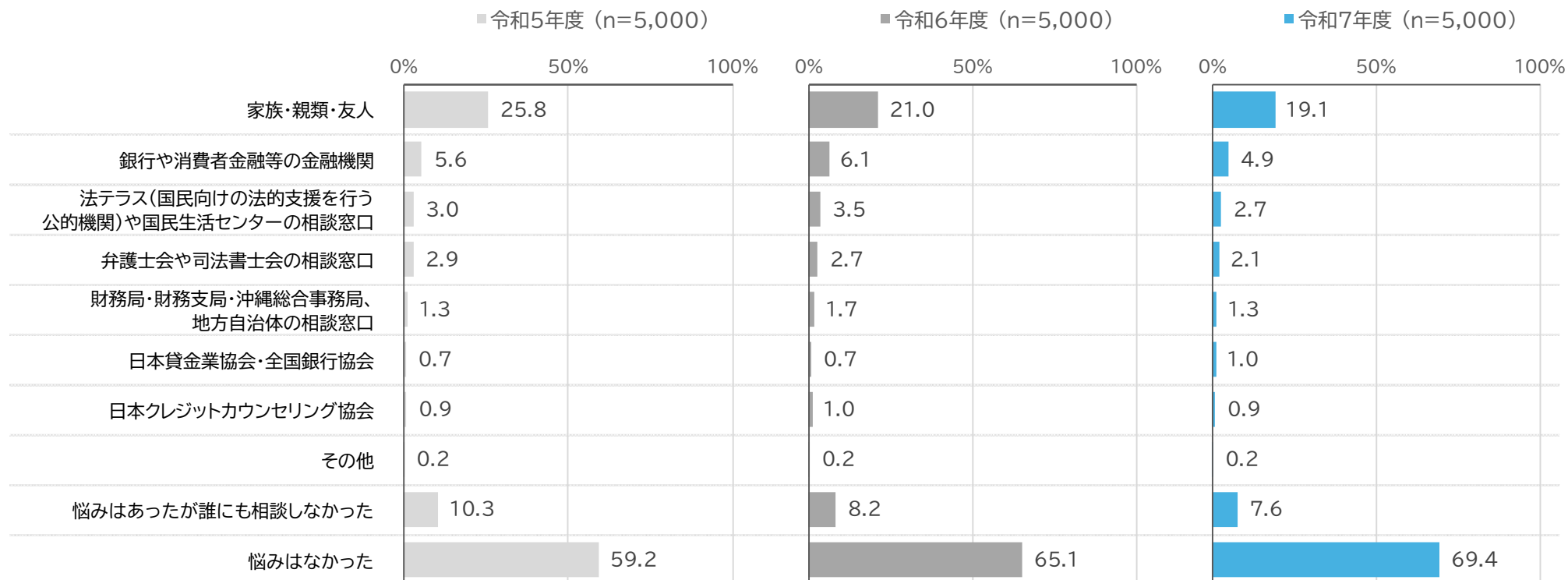
ベース:財務局や地方自治体が設置している多重債務専門の相談窓口を知っていた者(Q9において「財務局や地方自治体が設置している多重債務専門の相談窓口」で詳細な内容について知っていた、または聞いたことはあるが詳細な内容は知らなかったと回答した者)



- 家計や借入れに関する悩みの相談先としては、「家族・親類・友人」が19.1%と最も高く、「銀行や消費者金融等の金融機関」が4.9%、「法テラスや国民生活センターの相談窓口」が2.7%と続き、相談先について前年度から大きな変化は見られない。
- 家計や借入れに関して「悩みはなかった」と回答した人は前々年度より10.2ポイント増加し、また前年度より4.3ポイント増加しており、近年増加傾向にある。

Q11.あなたの、家計や借入れに関する悩みの相談先をお答えください。(最大5つまで)

ベース:全体 (n=各回5,000) ※ウエイトバックあり



- 新たに借入れをした人の相談先について、資金の利用目的が「生活費の支払いのため」「後払い決済等の利用代金を支払うため」「貸金業者への返済の支払いのため」や「趣味や娯楽への支出のため」であると回答した人については「家族・親類・友人」が多いが、「ギャンブル等の元手のため」と回答した人の相談先としては「法テラスや国民生活センターの相談窓口」が多い。

Q6.あなたが新たに借入れ・利用した資金の利用目的をお答えください。(それぞれひとつずつ)

ベース:新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じた者(Q5で「新たに借入れ・利用しなければならない理由が生じたため」を選択した者)

Q11.あなたの、家計や借入れに関する悩みの相談先をお答えください。(最大5つまで)

ベース:全体 (n=5,000)

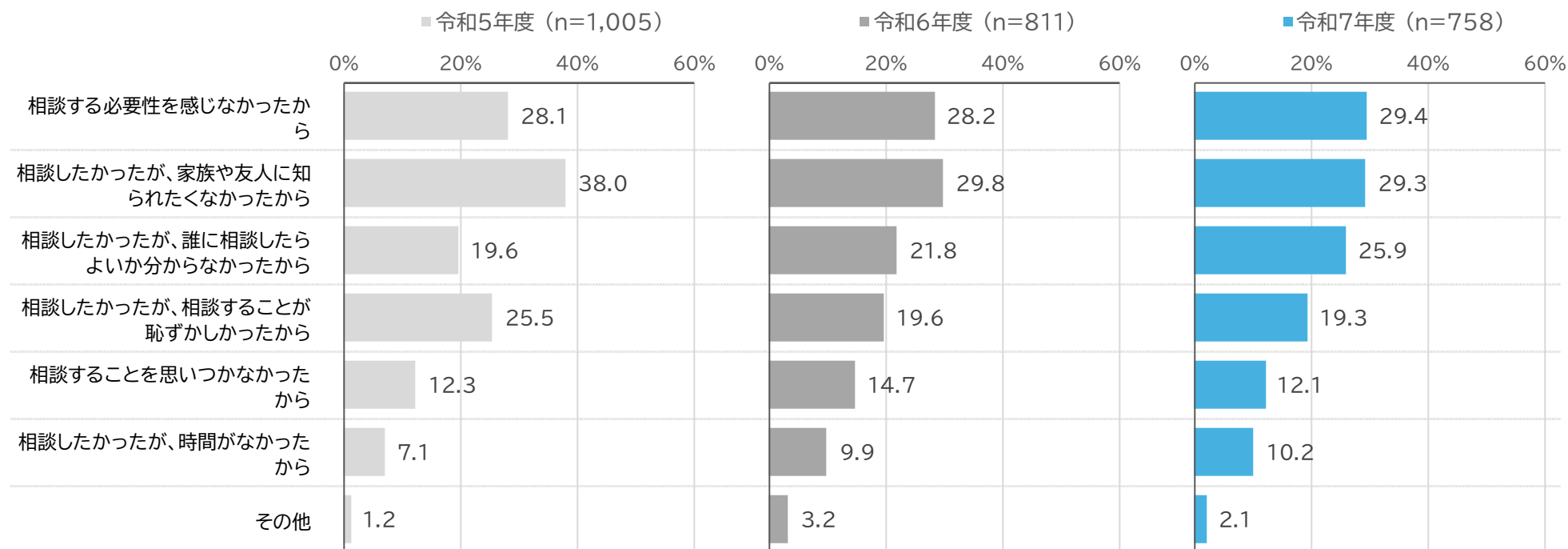
		Q11 相談先										
		回答数 (n=)	家族・親類・友人	銀行や消費者金融等の金融機関	法テラス(無料の法律相談など国民向けの法的支援を行う公的機関)や国民生活センターの相談窓口	弁護士会や司法書士会の相談窓口	財務局・財務支局・沖縄総合事務局、地方自治体の相談窓口	日本貸金業協会・全国銀行協会	日本クレジットカウンセリング協会	その他	悩みはあったが誰にも相談しなかった	悩みはなかった
	全体	(5,000)	19.1	4.9	2.7	2.1	1.3	1.0	0.9	0.2	7.6	69.4
Q6 新たに借入れ・利用した資金の利用目的	生活費の支払いのため	(236)	39.0	22.0	22.9	23.3	16.5	11.4	11.4	0.8	29.7	5.5
	後払い決済等の利用代金を支払うため	(196)	35.2	24.5	24.5	21.9	17.3	13.8	12.8	1.0	31.1	4.1
	貸金業者への返済の支払いのため	(145)	38.6	20.0	29.7	28.3	22.1	16.6	17.2	0.7	29.0	0.7
	趣味や娯楽への支出のため	(115)	35.7	31.3	32.2	27.8	27.8	17.4	18.3	0.9	20.9	7.0
	ギャンブル等の元手のため	(82)	36.6	23.2	42.7	32.9	30.5	25.6	26.8	-	13.4	3.7

※それぞれの借入目的ごとに、最も高い相談先を赤字で記載。

- 家計や借入れに関する悩みがあったが誰にも相談しなかった理由としては、「相談する必要性を感じなかったから」が29.4%と最も高く、次いで「相談したかったが、家族や友人に知られたくなかったから」が29.3%、「相談したかったが、誰に相談したらよいか分からなかった」が25.9%と続き、前年度から大きな変化は見られない。

Q12.あなたが相談しなかった理由をお答えください。(いくつでも)

ベース:家計や借入れに関する悩みがあったが誰にも相談しなかった者(Q11において「悩みはあったが誰にも相談しなかった」と回答した者)



事業資金やキャッシュレス決済の支払いのための借入状況

- 経営者・役員または個人事業主が事業資金の借入れを行った先としては、「銀行」が42.6%と最も高く、次いで「公的金融機関」が29.0%、「信用金庫・信用組合」が26.7%と、いずれも前年度から大きな変化は見られない。

Q13.あなたは、以下の業者からの借入れ又は利用による事業資金の調達を行った経験はありますか。それぞれあてあまるものをお答えください。
(それぞれひとつずつ)

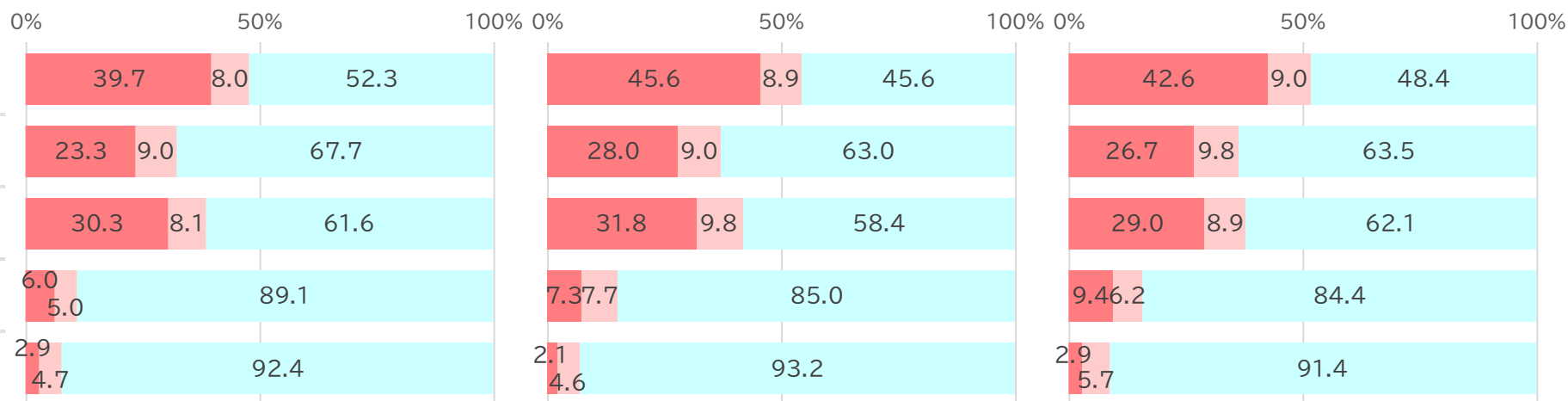
ベース: 経営者・役員または個人事業主(自営業等を含む)

- 事業資金として利用経験あり
- 事業資金としての利用経験はないが、事業資金として利用しようとした
- 事業資金としての利用経験なし、かつ事業資金として借入れを利用しようとしたこともない

令和5年度 (n=各786)

令和6年度 (n=各711)

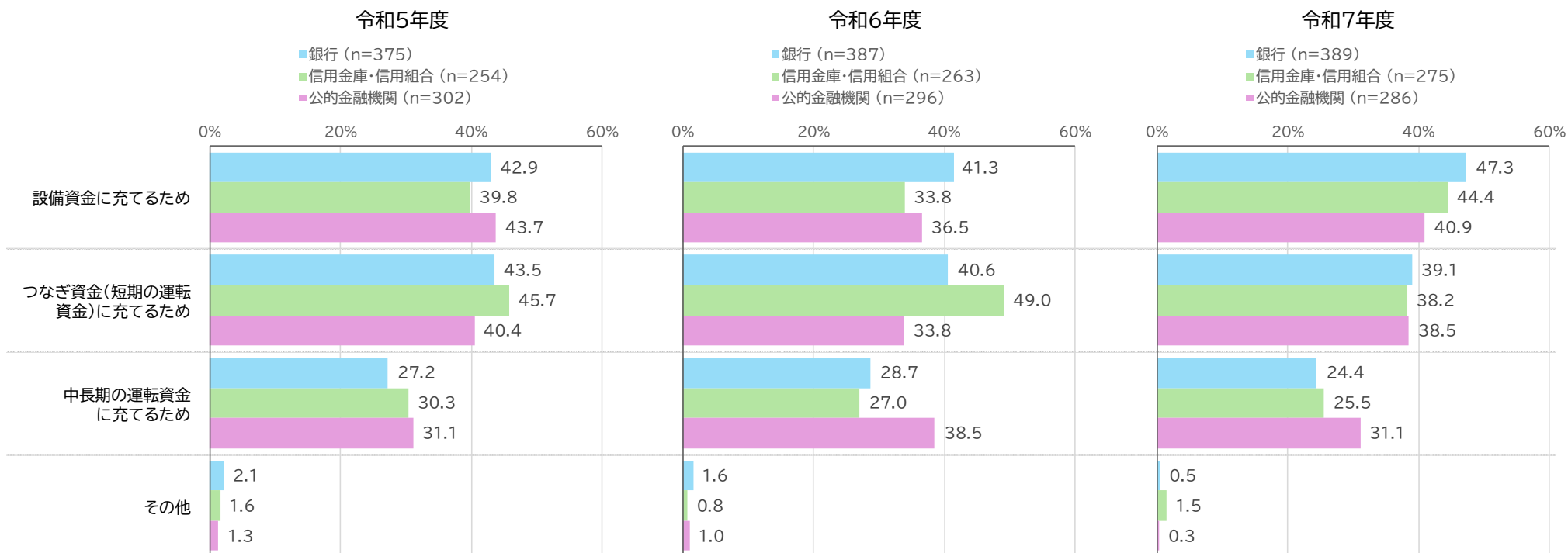
令和7年度 (n=各754)



- 【銀行】、【信用金庫・信用組合】、【公的金融機関】からの借入目的について、いずれの金融機関においても「設備資金に充てるため」と回答した割合が最も高く、また前年度と比較すると【銀行】は6.0ポイント、【信用金庫・信用組合】は10.6ポイント、【公的金融機関】は4.4ポイント増加した。
- 【信用金庫・信用組合】からの借入目的について「つなぎ資金(短期の運転資金)に充てるため」と回答した人の割合は前年度と比較し10.8ポイント減少した。

Q14.あなたが以下の金融機関より事業資金を借り入れた(利用しようとした)際の借入目的について、それぞれお答えください。
(それぞれいくつでも)

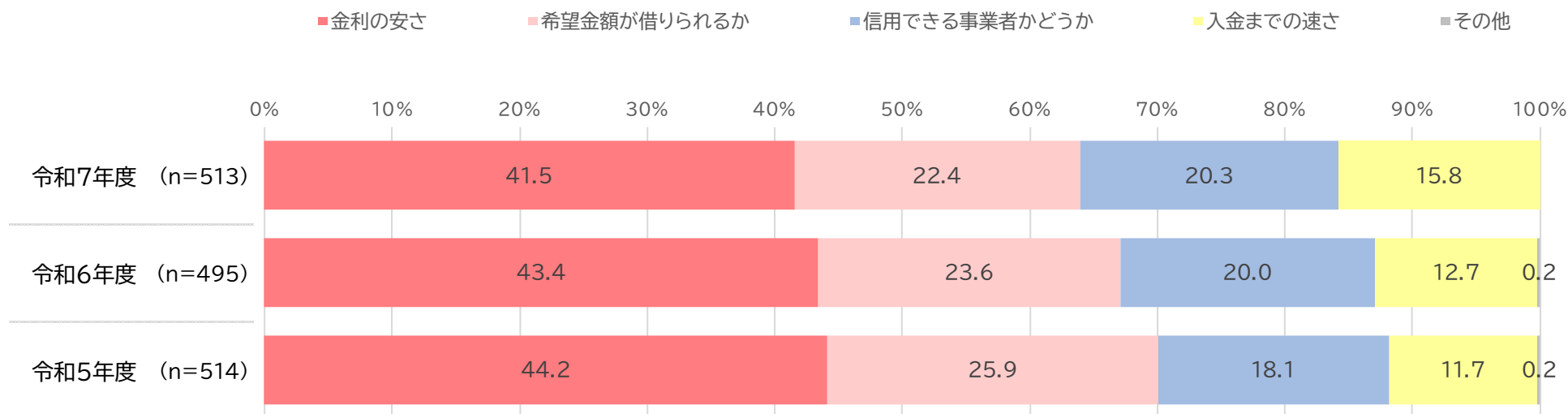
ベース:事業のための資金調達のために、借入れを利用した/利用しようとした者(Q13において「銀行」「信用金庫・信用組合」「公的金融機関」のいずれかで事業資金として利用経験あり、または事業資金としての利用経験はないが、事業資金として利用しようとしたと回答した者)



- 事業主が事業資金を借り入れる時の最も優先する事項は、「金利の安さ」が41.5%と最も高く、「希望金額が借りられるか」が22.4%、「信用できる事業者かどうか」が20.3%と続き、前年度から大きな変化は見られない。
- 「金利の安さ」や「希望金額が借りられるか」は近年減少傾向にある一方で、「信用できる事業者かどうか」や「入金までの速さ」は近年増加傾向にある。

Q15.あなたが借入れを検討する際に、最も優先する事項をお答えください。(ひとつだけ)

ベース:事業のための資金調達のために、借入れを利用した/利用しようとした者(Q13において「銀行」「信用金庫・信用組合」「公的金融機関」「貸金業者」のいずれかで事業資金として利用経験あり、または事業資金としての利用経験はないが、事業資金として利用しようとしたと回答した者)



- 3年以内借入経験者の中で、キャッシュレス決済の支払いのために借入れを利用したことがある人は49.4%で、前年度から大きな変化は見られない。
- キャッシュレス決済の支払いのための1回の借入平均借入額が「10万円以上」の人は22.8%であり、現在の借入残高が「10万円以上」の人は、40.6%で、いずれも前年度から大きな変化は見られない。

Q16.あなたは、最近3年以内にキャッシュレス決済の支払いのために借入れ・資金調達等を利用したことがあるかお答えください。(ひとつだけ)

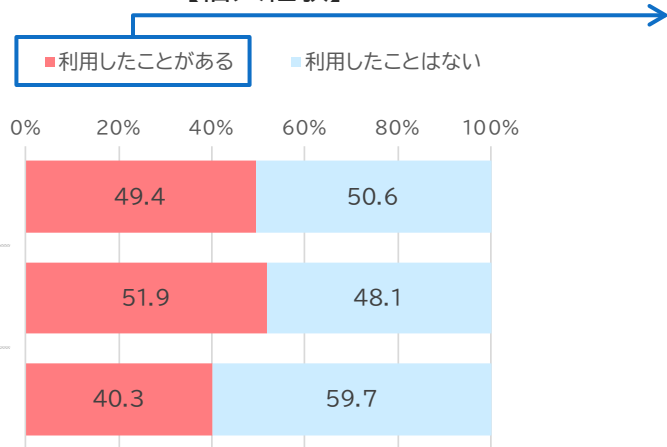
ベース：：下記の借入れ・資金調達等のサービス※のいずれかを3年以内に利用した経験がある者

※銀行のカードローン、クレジット会社のキャッシング・カードローン、消費者金融からの借入れ、商工ローンからの借入れ、各都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度、手形割引業者からの借入れ、ファクタリング、BNPL、クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ

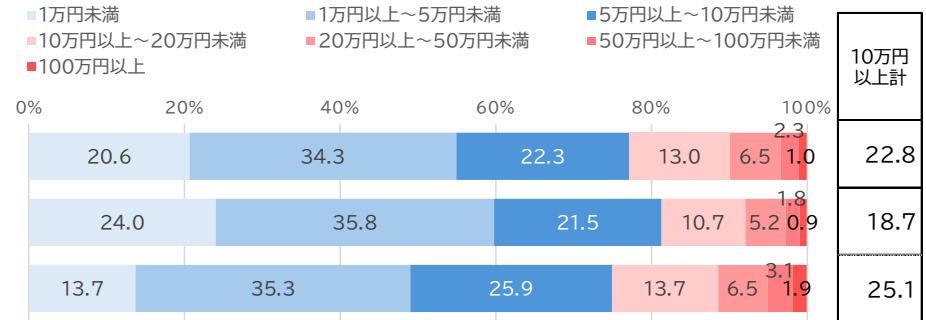
Q17.あなたが最近3年以内にキャッシュレス決済の支払いのために借入れ・資金調達等を利用した際の、1回の平均的な借入金額(利用金額)、現在の借入残高を以下の中からそれぞれお答えください。(それぞれひとつずつ)

ベース：キャッシュレス決済の支払いのために借入れ・資金調達等を利用したことがある者(Q16においてキャッシュレス決済の支払いのために借入れ・資金調達等を利用したことがあると回答した者)

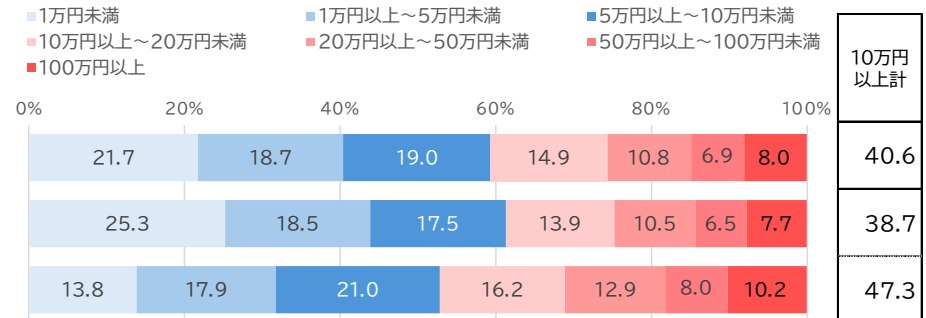
(キャッシュレス決済の支払い目的での)
【借入経験】



【1回の平均借入金額】



【現在の借入残高】



※10万円以上計=「10万円以上～20万円未満」～「100万円以上」

ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入状況

ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入れの1回の平均借入金額／借入残高

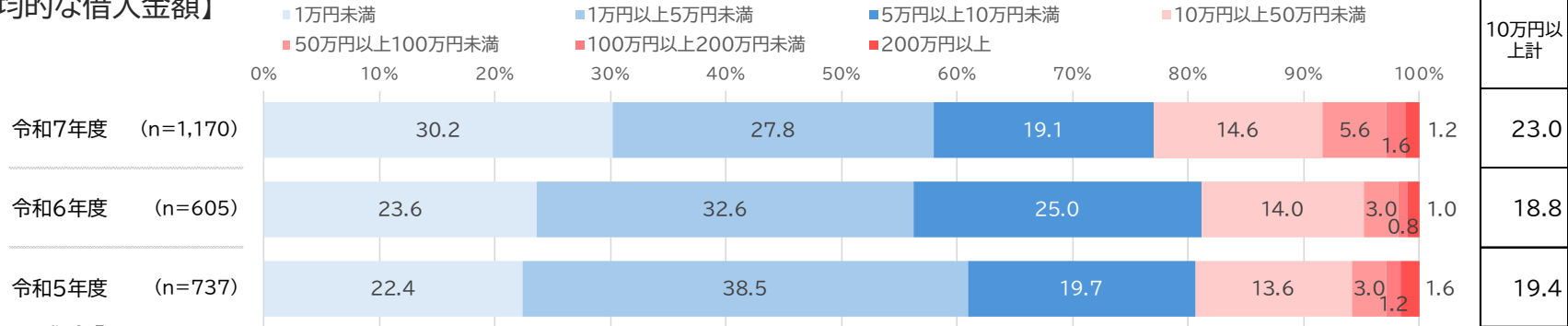
- ギャンブル等や趣味・娯楽のために借入れした際の、1回の平均借入額は、「1万円未満」が30.2%と最も高く、前年度より6.6ポイント増加した。また、「10万円以上」は23.0%で、前年度から4.2ポイント増加した。
- ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入れの借入残高は、「1万円未満」が32.2%と最も高く、前年度より5.4ポイント増加した。また、「10万円以上」は36.4%で、前年度から大きな変化は見られない。

Q18.あなたが最近3年以内にギャンブル等や趣味・娯楽のために借入れした際の、1回の平均的な借入金額(利用金額)、現在の借入残高を以下の中からそれぞれお答えください。(それぞれひとつずつ)

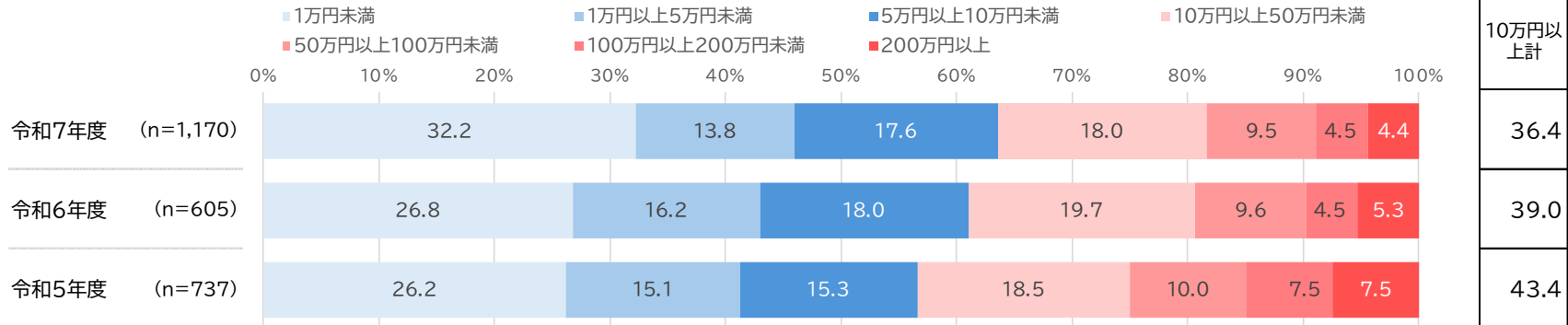
ベース:ギャンブル等(公営競技、パチンコ等の射幸行為)の元手や趣味・娯楽(レジャーや課金等)への支出のために下記の借入れ・資金調達等のサービス※のいずれかを3年以内に利用した経験がある者

※銀行のカードローン、クレジット会社のキャッシング・カードローン、消費者金融からの借入れ、商工ローンからの借入れ、各都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度、手形割引業者からの借入れ、ファクタリング、BNPL、クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ

【1回の平均的な借入金額】



【現在の借入残高】



※10万円以上計=「10万円以上50万円未満」～「200万円以上」

- ギャンブル等や趣味・娯楽のために借入れをした人の中で、ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入れやギャンブル等にのめりこんでしまうことについて相談したことがない人は40.9%と最も多く、また相談しなかった理由としては、「相談する必要性を感じなかったから」が53.8%と最も多い。
- 具体的な相談先としては、「家族・親類・友人」が22.6%と最も高く、次いで「法テラスや国民生活センターの相談窓口」が18.9%、「財務局や地方自治体が設置している多重債務専門の相談窓口」が13.7%となっており、前年度から大きな変化は見られない。

Q19.ギャンブル等や趣味・娯楽のための借入れや、ギャンブル等にのめりこんでしまうことについての相談先をお答えください。(いくつでも)

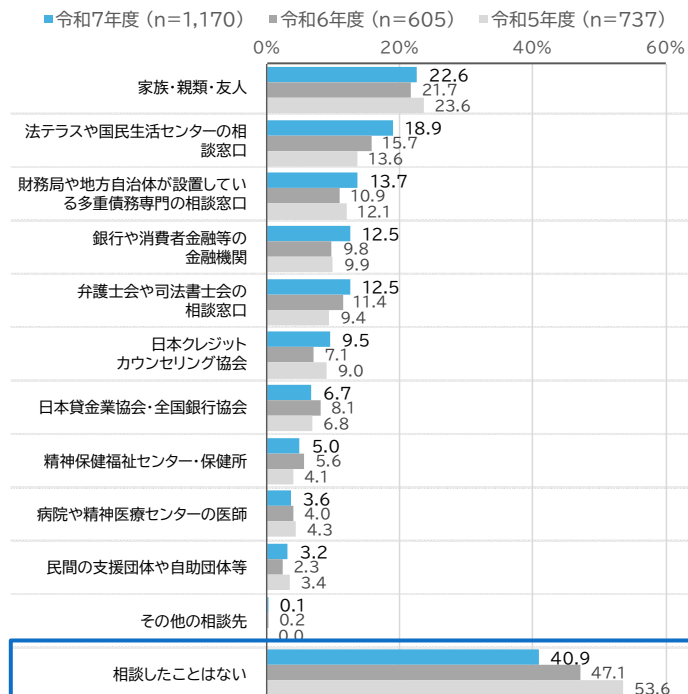
ベース:ギャンブル等(公営競技、パチンコ等の射幸行為)の元手や趣味・娯楽(レジャーや課金等)への支出のために下記の借入れ・資金調達等のサービス※のいずれかを3年以内に利用した経験がある者

※銀行のカードローン、クレジット会社のキャッシング・カードローン、消費者金融からの借入れ、商工ローンからの借入れ、各都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度、手形割引業者からの借入れ、ファクタリング、BNPL、クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ

Q20.あなたが相談しなかった理由をお答えください。(いくつでも)

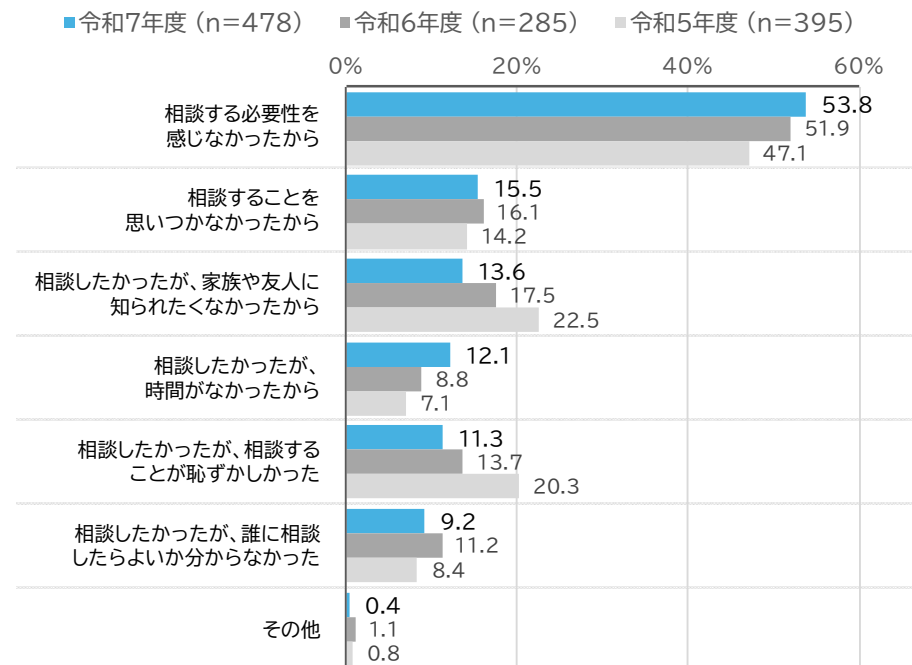
ベース:借入れについて相談しなかった者(Q19において相談したことはないと回答した者)

【相談先】



※「令和7年度」の高い順で並び替え

【相談しなかった理由】



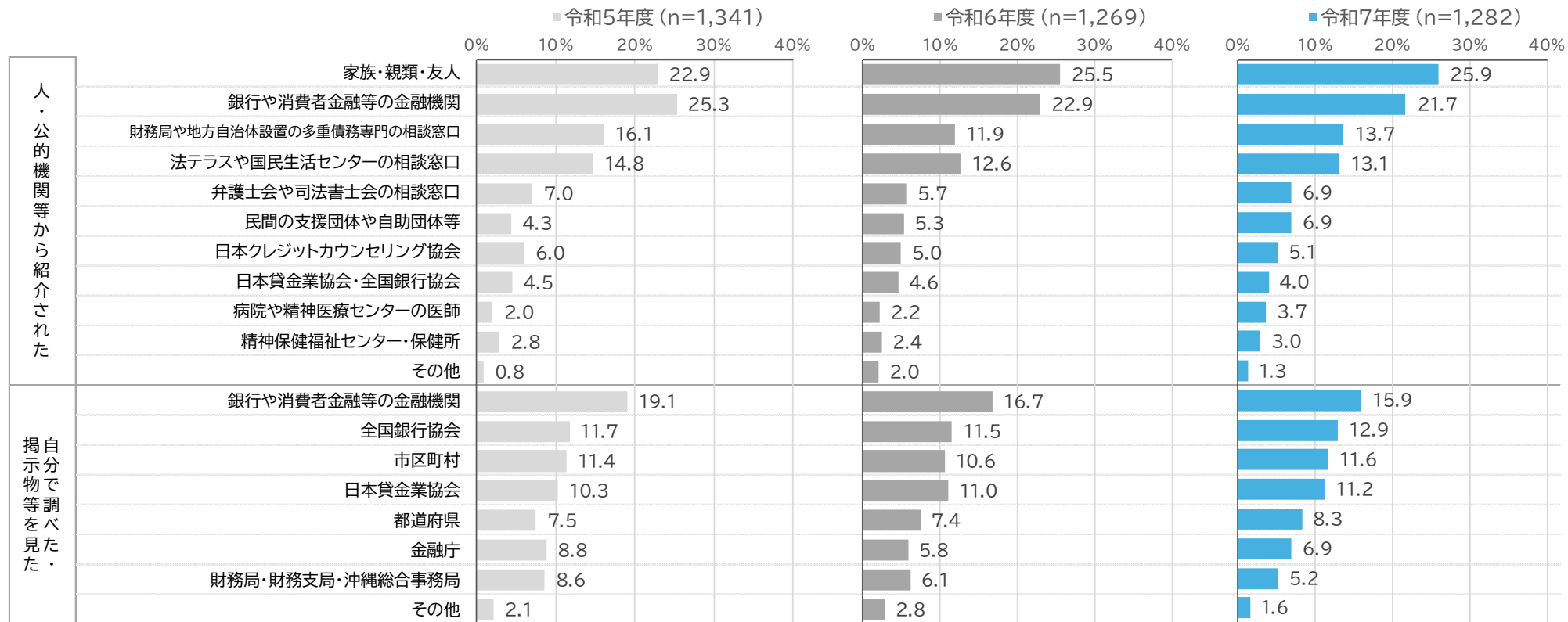
※今回のTOP2高い順で並び替え

貸付自粛制度の認知・利用状況

- 貸付自粛制度を知った経緯のうち、「人・公的機関等から紹介された」について、「家族・親類・友人」が25.9%と最も高く、次いで「銀行や消費者金融等の金融機関」が21.7%、「財務局や地方自治体が設置している多重債務専門の相談窓口」が13.7%と続き、前年度から大きな変化は見られない。
- また、「自分で調べた・掲示物等を見た」について、「銀行や消費者金融等の金融機関」が15.9%と最も高く、次いで「全国銀行協会」は12.9%、「市区町村」は11.6%と続き、前年度から大きな変化は見られない。

Q21.あなたが、貸付自粛制度を知った経緯をお答えください。(いくつでも)

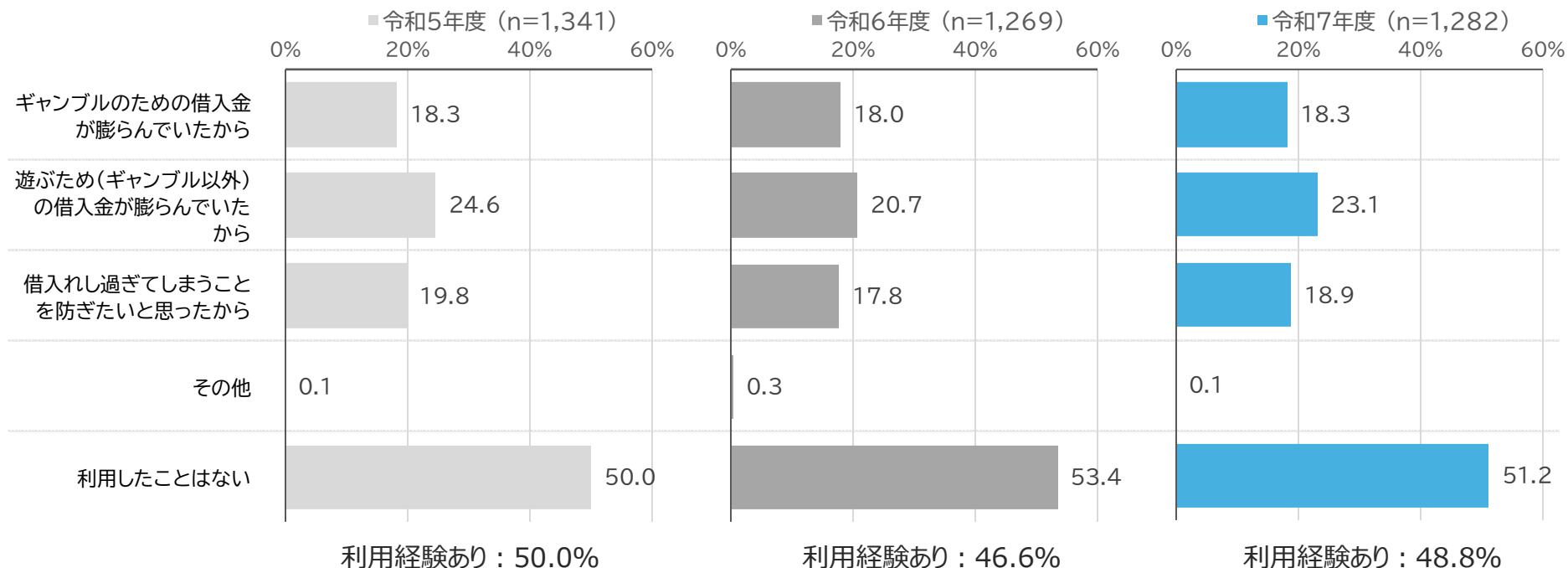
ベース:貸付自粛制度を知っていた者(Q9において「日本貸金業協会・全国銀行協会による貸付自粛制度」で詳細な内容について知っていた、または聞いたことはあるが詳細な内容は知らなかったと回答した者)



- 貸付自粛制度を認知している人の中で、利用したことがある人は48.8%で、前年度から大きな変化は見られない。
- 利用した理由としては、「遊ぶため(ギャンブル等以外)の借入金が膨らんでいたから」が23.1%と最も高く、次いで「借入れし過ぎてしまうことを防ぎたいと思ったから」が18.9%、「ギャンブルのための借入金が膨らんでいたから」が18.3%と続き、前年度から大きな変化は見られない。

Q22.あなたが貸付自粛制度を利用したことがあるかお答えください。(いくつでも)

ベース:貸付自粛制度を知っていた者(Q9において「日本貸金業協会・全国銀行協会による貸付自粛制度」で詳細な内容について知っていた、または聞いたことはあるが詳細な内容は知らなかったと回答した者)



- 貸付自粛制度の利用経験者の中で、撤回をしたことがある人は67.3%で、前年度から大きな変化は見られない。また、撤回をした人の中で「撤回したことはあるが、撤回後に借入れは行っていない」人は、前々年度より8.2ポイント増加し、前年度より3.4ポイント増加しており、近年増加傾向にある。
- 貸付自粛制度を利用しない理由は、「特に理由はない」(34.8%)を除くと、「自分で借入れを制御できると思ったから」(23.8%)が最も高く、前々年度より9.2ポイント減少し、前年度より5.6ポイント減少しており、近年減少傾向にある。

Q23.あなたが貸付自粛制度を撤回したことがあるかお答えください。(ひとつだけ)

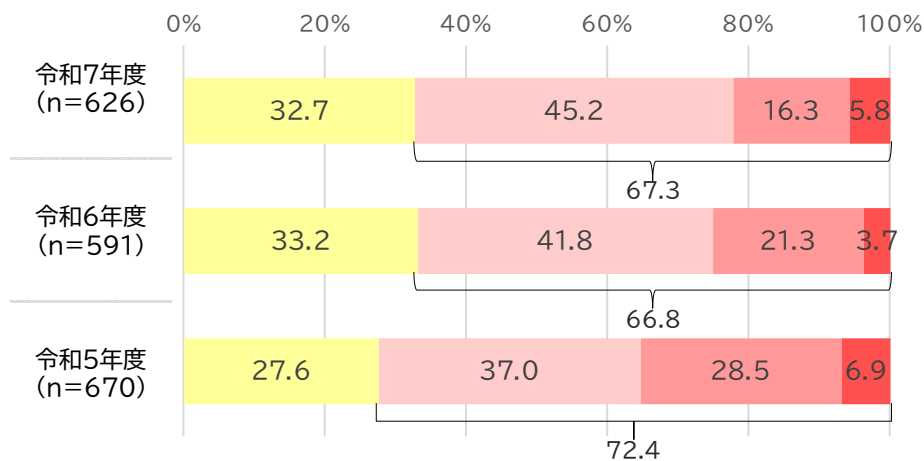
ベース:貸付自粛制度の利用経験者(Q22において貸付自粛制度を利用したことがあると回答した者)

Q24.あなたが貸付自粛制度を利用しない理由をお答えください。(いくつでも)

ベース:貸付自粛制度の利用未経験者(Q22において貸付自粛制度を利用したことはないと回答した者)

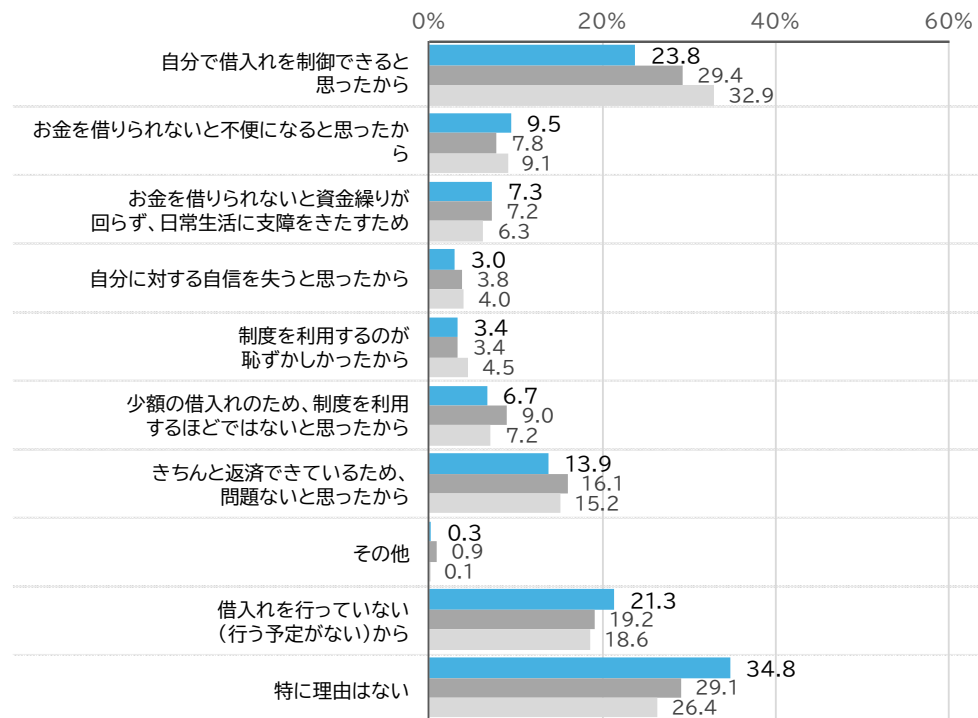
【撤回経験】

- 撤回したことはない
- 撤回したことはあるが、撤回後に借入れは行っていない
- 撤回したことがあり、撤回後に借入れを行ったことがある
- 撤回したことがあり、撤回後に改めて制度を利用したことがある



【利用しない理由】

■ 令和7年度 (n=656) ■ 令和6年度 (n=678) ■ 令和5年度 (n=671)



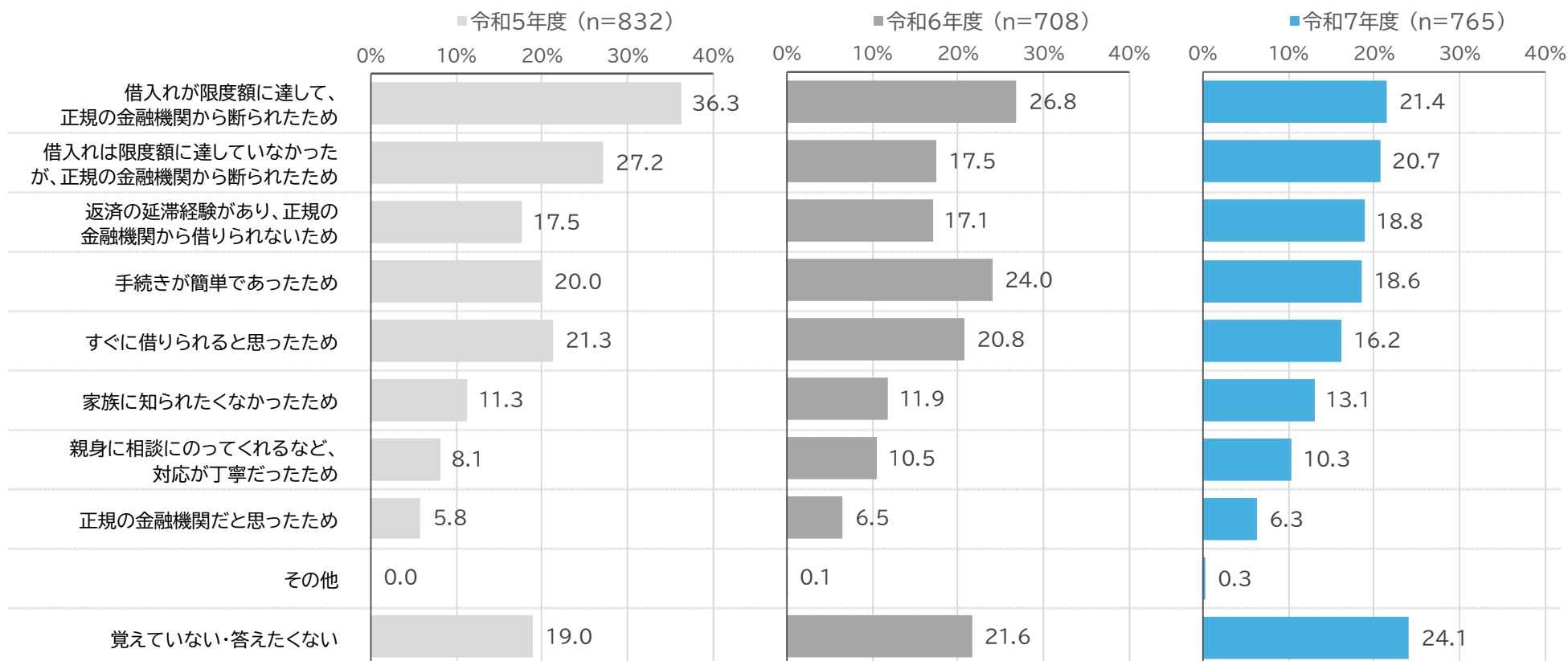
無登録業者(ヤミ金融)の利用状況

- 無登録業者(ヤミ金融)から借入れを行った理由としては、「借入れが限度額に達して、正規の金融機関から断られたため」が21.4%と最も高く、次いで「借入れは限度額に達していなかったが、正規の金融機関から断られたため」が20.7%、「返済の延滞経験があり、正規の金融機関から借りられないため」が18.8%と続く。
- 「借入れが限度額に達して、正規の金融機関から断られたため」は、前々年度より14.9ポイント減少し、前年度より5.4ポイント減少しており、近年減少傾向にある。

Q25.あなたが、正規の金融機関(銀行、貸金業者(クレジットカード会社、消費者金融、商工ローン)等)ではなく、無登録業者(ヤミ金融)から借入れを行った理由をお答えください。(いくつでも)

ベース:下記の無登録業者からの借入れを経験したことがある者

※クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)



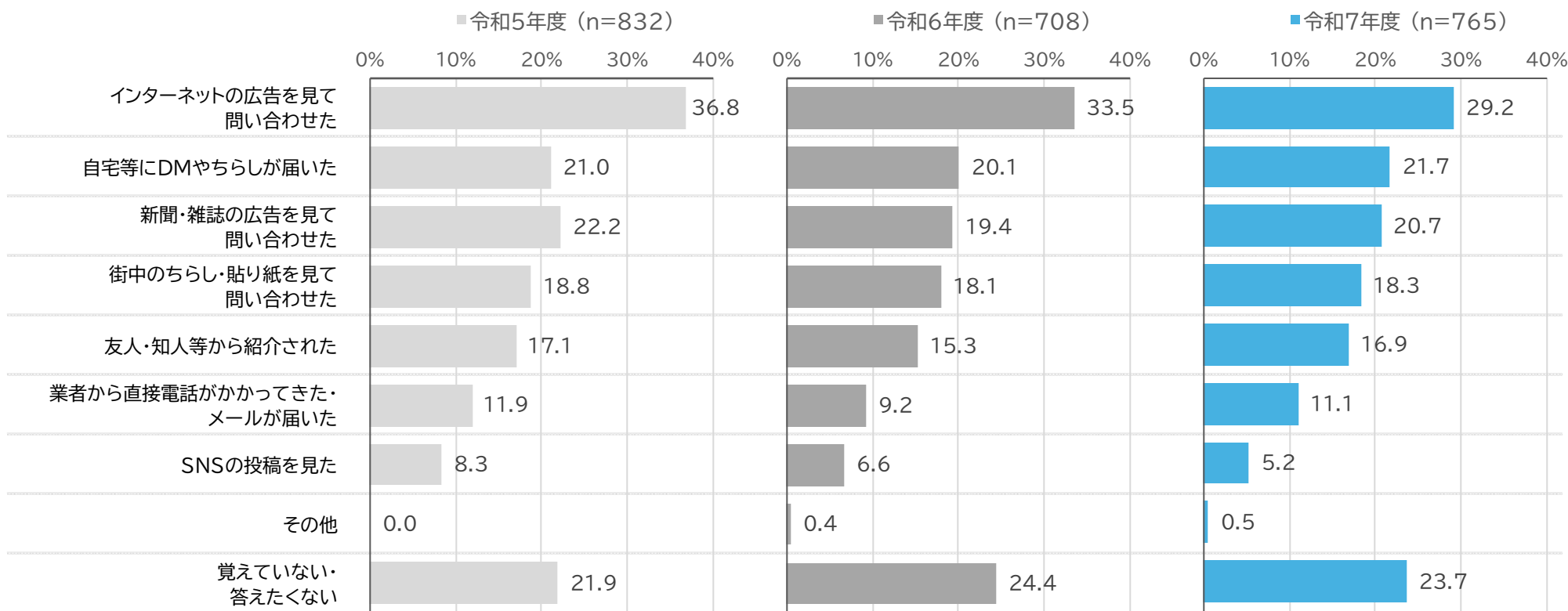
※今回のTOP2高い順で並び替え

- 最初に無登録業者(ヤミ金融)と接触したきっかけとしては、「インターネットの広告を見て問い合わせた」が29.2%が最も高く、次いで「自宅等にDMやちらしが届いた」が21.7%、「新聞・雑誌の広告を見て問い合わせた」が20.7%と続く。
- 「インターネットの広告を見て問い合わせた」は、前々年度より7.6ポイント減少し、前年度より4.3ポイント減少しており、近年減少傾向にある。

Q26.あなたが最初に無登録業者(ヤミ金融)から借入れを行った際に、その業者と接触したきっかけをお答えください。(いくつでも)

ベース:下記の無登録業者からの借入れを経験したことがある者

※クレジットカードのショッピング枠の現金化、SNS等を利用した個人間融資、後払い(ツケ払い)現金化、先払い買取現金化、給与ファクタリング、偽装ファクタリング、無登録業者(ヤミ金融)



調査のお問い合わせ



株式会社MSS MR事業部

東京都港区虎ノ門4丁目1-40 江戸見坂森ビル

<https://mssinc.jp/>